

平成31（2019）年度 第1回 宇都宮市民大学運営協議会

日 時 平成31（2019）年4月18日（木）
午後3時～

会 場 人材かがやきセンター研修室
（宇都宮市中央生涯学習センター5階）

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 平成30年度宇都宮市民大学事業報告について・・・資料1
- (2) 平成30年度宇都宮市民大学収支決算について・・・資料2
- (3) 平成31（2019）年度宇都宮市民大学事業計画（案）について・・・
資料3
- (4) 平成31（2019）年度宇都宮市民大学収支予算（案）について・・・
資料4
- (5) 宇都宮市民大学専門講座における公開講座の取り扱い変更について
資料5

3 その他

4 閉 会

宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間
(平成30年9月1日～平成32年8月31日)

平成30年9月1日現在

No.	氏名	所属団体等役職
1	あべ よしこ 阿部 好子	宇都宮大学 企画広報部企画広報課長
2	えだ そういち 江田 壮一	宇都宮短期大学 事務局長
3	おおやま しんいち 大山 眞一	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ
4	かわしま やすお 川島 育郎	株式会社栃木放送 報道制作局長
◎	かわもと きよし 川本 清	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務局長
6	こばやし じろう 小林 治郎	株式会社 下野新聞社 編集局総務部長
◇	こばり きょうこ 小針 協子	とちぎボランティアNPOセンターぽぽら コーディネートリーダー
○	しまだ しげお 島田 繁雄	宇都宮市民大学講座企画運営選考委員 宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長
◇	のなか まさとも 野中 正知	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長
10	はせがわ きょうこ 長谷川 京子	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員

(五十音順)

◎ 会長 ○ 副会長 ◇ 監事

平成30年度宇都宮市民大学事業報告について

平成30年度は、公開講座（前期・後期各1講座）、専門講座を12講座（前期6講座、後期6講座）開催した。

開催期間は、平成30年5月28日（金）～12月21日（金）、受講者数は公開講座319名、専門講座670名で専門講座の修了者は595名（修了率88.8%）となった。

1 公開講座

「別紙1」のとおり

2 専門講座

「別紙2」「別紙3」のとおり

3 総評と課題

受講申し込み期間が2週間と短い期間にも関わらず、前期・後期通して全体の定員を上回る申し込み希望があり、受講生の各専門講座の修了率も全体で88%と高く、受講者アンケートにおいても成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が全体の93%を占めるなど受講生にとって満足いく講座を実施することができた。

平成29年度から取り組んだ「受講者の決定方法見直し」により、新規申込者を優先的に受講決定することで新規申込者の把握ができた。これにより、新規申込者が、前期定員320名に対し41名（12.8%）、後期定員330名に対し40名（12.1%）と全体で12.5%（前年度対比△7.4%）となった。今後も、開催曜日や時間帯を工夫することや、引き続き個人の要望に基づく趣味・教養的な学びを提供するとともに、現代的な課題や旬の話題を講座に取り入れるなど、幅広い学習内容で講座を実施することにより、受講者満足度の向上や更なる新規受講者の獲得を図っていく。

平成30年度 宇都宮市民大学合同開講式・公開講座実施状況

別紙1

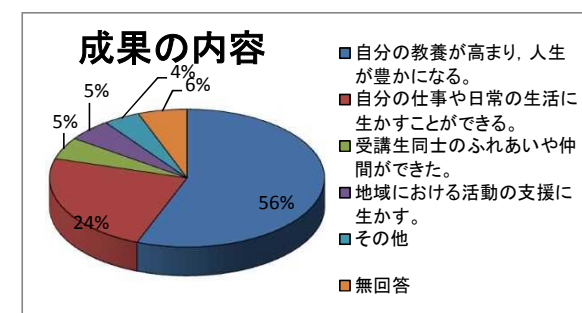
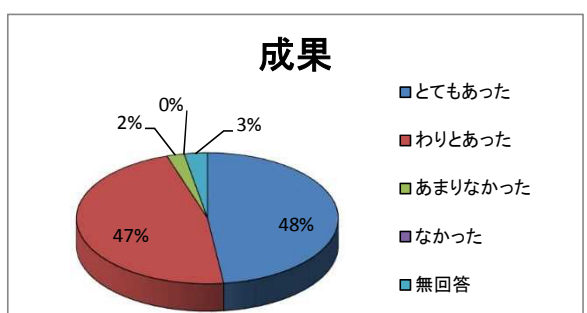
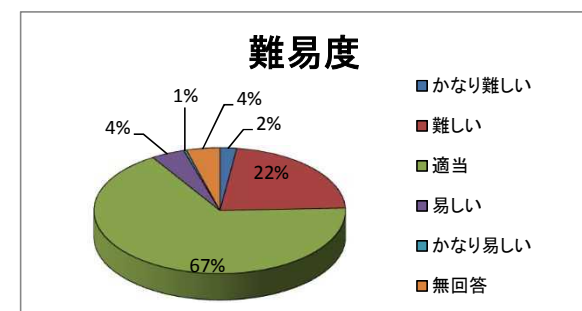
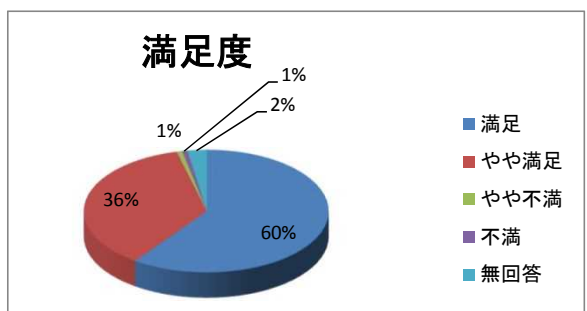
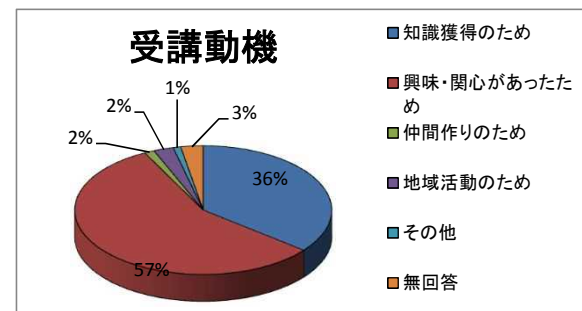
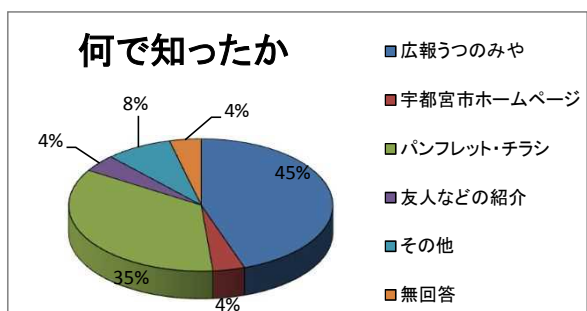
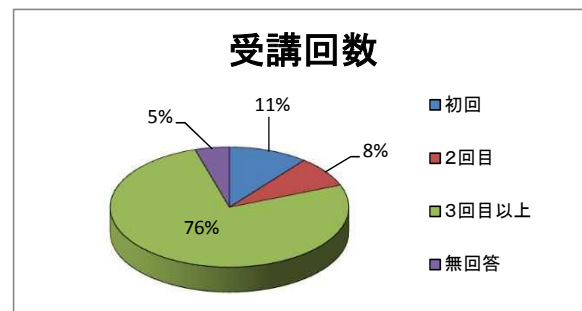
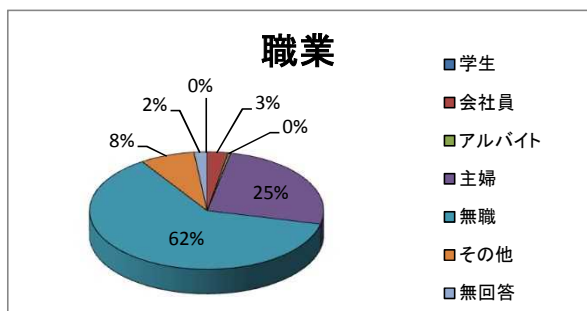
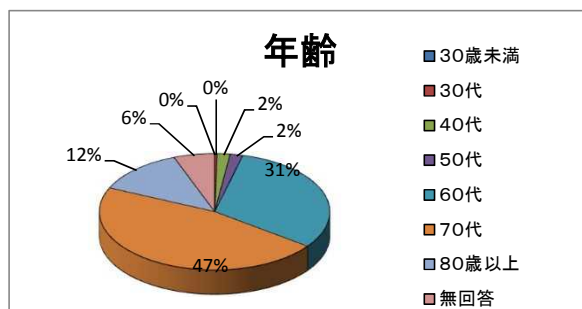
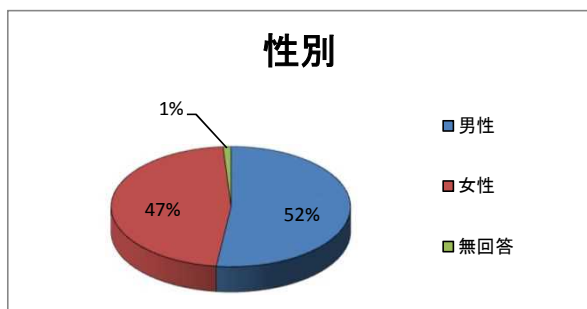
		開催日時・会場・受講人数	実施内容	講座の評価	(参考) 受講者の感想・意見
前期	合同開講式	<ul style="list-style-type: none"> 開催日時 平成30年5月25日(金) 午後2時～午後4時 会場 宇都宮共和大学 宇都宮シティキャンパス 4階 受講者数 158名 	<ul style="list-style-type: none"> 主催者挨拶 宇都宮市教育委員会 教育長 水越 久夫 宇都宮共和大学 学長 須賀 英之 氏 来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 竹内 律 氏 受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育長より 受講者代表2名へ交付 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者のアンケートでは、7割以上が「とても意義がありよかった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。 受講者が一堂に会する唯一の機会であることや、会場を共催事業として文星芸術大学にて実施したことは、受講者の学習意欲の高揚や満足度の向上に繋がったものと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 開講式の意義や公開や専門講座をもつ意味などが確認された。 開講式はもちろん、関係者の熱意が感じられ、これからの講座への期待も膨らんだ。 330名も大勢の受講者が一同に集まり、向学心溢れる皆さんと会えてよかった。各大学持ち回りで開講式・公開講座でよい。 本日の開講式の様に交通便のいい場所でいつもやってほしい。交通便の悪いところは出席できず、そして受講料はいつも支払い損。できたら専門講座会場と近いところで受けることを出来る様にしてほしい。
	公開講座		<ul style="list-style-type: none"> テーマ 「宇都宮のまちづくり ～魅力的なまちにするために～」 講師 宇都宮共和大学シニアライフ学部長 教授 山島 哲夫 氏 講義内容 宇都宮の人口や住宅、まちなかの様子などから宇都宮の現状と課題について学び、他市の魅力的なまちの事例等からどのように宇都宮を魅力的なまちにしていけるかを考えた講座。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者アンケートでは、「とてもよかった」「どちらかといえばよかった」の意見が89%と、非常に満足度の高い講座であった。 特に、これから人口減少が進む宇都宮のまちづくりについての内容であり、受講者にとって興味・関心の高い講座であった。受講者からは「まちづくりの必要性に気付いた」「まちづくりに参加したい」「宇都宮の未来が楽しみになった」などの声が多く寄せられ、本講座の目的である宇都宮のまちづくりを考えるきっかけづくりに繋がったものと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮の魅力を確認でき、大変良かった。 少子、高齢化社会における新たな“まちづくり”の必要性・重要性について理解が深まった。 地域の活性化で街を元気にするために、高齢化になっても外出しやすい街づくりが大切だと思う。 私もできることで宇都宮のまちづくりに協力していきたいと思った。
後期	合同開講式	<ul style="list-style-type: none"> 開催日時 平成30年10月25日(木) 午後2時～午後4時 会場 帝京大学 宇都宮キャンパス 地域経済学科棟 101大会議室 受講者数 161名 	<ul style="list-style-type: none"> 主催者挨拶 宇都宮市教育委員会事務局 教育次長 菊池 康夫 帝京大学 医療技術学部 柔道整復学科長 井原 正博 氏 来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 竹内 律 氏 受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育長より 受講者代表2名へ交付 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者のアンケートでは、6割以上が「とても意義があった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。 受講者が一堂に会する唯一の機会であり、帝京大学宇都宮キャンパスとの共催事業として、会場の提供はもとより、今回初めて学内の見学や学食の利用により、受講者満足度の向上に繋がったものと考察される。また、主催者及び来賓の話から学ぶ姿勢や意義を学べたという意見も多数見受けられ、受講者の学習意欲の高揚につながったと考察される。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講する講座が異なっても一堂に会して式を行うことは市民大学生として意義深いものがあると感じた。 合同開講式の必要性が感じられない。形式的である。 企画者に今回の専門講座(6テーマ)を決めるに至った検討経過や議論点、こだわり、セールスポイントなどを紹介してもらえるとよいと思う。
	公開講座		<ul style="list-style-type: none"> テーマ ころとからだの健康寿命 ～豊かな老年期を迎えるために～ 講師 帝京大学医療技術学部 柔道整復学科 准教授 小林 恒之氏 氏 講義内容 超高齢社会に直面している現代日本。「老年期」を豊かに過ごすためには、不健康な状態を遅らせる「健康寿命を延ばす」ことが重要である。生理学、脳科学、ポジティブ心理学など複数の分野から、心身ともに健康であり続ける方法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 受講者アンケートでは、「とても良かった」「どちらかといえば良かった」との意見が8割以上と、満足度の高い講座であった。 年齢を重ねるにつれて、幸福感が上昇する「エイジングパラドックス」が示された。また、ポジティブ心理学の観点から簡単なエクササイズなどが紹介された。 受講者がシニア世代中心であることから、特に「老年期」にネガティブなイメージを持っていたようだったが、受講後には「歳をとるのも悪くない」というようなポジティブな感想を持った人が多数見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常に面白い話だった。自分自身も前向きに生活しようと思われた。 普段勉強しないようなことを聞くことができ、新鮮だった。 歳をとることはネガティブな面があるが、老いても感情は消えないとの事、生き方の感情を知った。 かなり専門的な内容が含まれていたため、資料(簡単なもの)を少し添えてほしかった。 質疑応答の時間が用意されていなかったことが非常に残念だった。

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価
I	悪人か？英雄か？ ～見方を変えると歴史が変わる～ (全7回)	歴史研究家 高橋 昭夫 氏 栃木県立博物館 学芸部長 江田 郁夫 氏 学芸員 山本 享史 氏	5/28～ 7/9	(50) [146] 85	83 [75] 90,4%	多数の申込みにより定員50名に対し85名を受講決定としたが、出席率、修了率ともに高く熱心が伺えた。講義は理解しやすく、資料の地図や写真は見やすく文字が大きかったので受講者に好評であった。悪人が英雄かの評価は受講者に委ね考えさせることで、定説に囚われない歴史の楽しさを学ぶことができた。単純明快なテーマへの期待通り、受講者の知的好奇心や学習意欲を高めた講座になった。
I	住みやすい都市と環境を考える (全6回) [宇都宮共和大学連携講座]	宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授 寺内 孝夫 氏 准教授 大石 和博 氏 専任講師 西山 弘泰 氏 宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 桂木 奈巳 氏 講義 教授 高柳 恭子 氏 専任講師 丸橋 亮子 氏	6/1～ 7/6	(30) [28] 28	26 [22] 84.6%	連携講座につき宇都宮共和大学を会場に講座を実施した。環境が良く学生と同じ学び舎での講座は、受講生にとっては向学心がそそられる機会になった。「住みやすい都市と環境を考える」とのテーマのもと、子どもの成長と人権、都市の環境のあり方を、それぞれ専門とする講師の講義により、身近な問題として自分たちや家族が住みやすい都市と環境の実現に向け考えるいい機会となった。
I	中世宇都宮一族の文化力 ～「宇都宮歌壇」の成立と 和歌をめぐる～ (全6回)	立正大学 文学部 教授 渡邊 裕美子 氏	6/5～ 7/10	(70) [71] 71	64 [58] 90.6%	武士が和歌を詠むようになった背景から始まり、和歌の歴史や中央歌壇の動き、鎌倉歌壇の成立と順序立てながら、宇都宮歌壇の成立まで講義いただいた。宇都宮歌壇に属する武家歌人の勅撰集入集歌等を紐解くことで、中世の地方都市に生きた人々の生活やその時々的心情が感じ取れ、宇都宮歌壇の豊かな世界に触れることができた。
II	希望と共に生きる ～新しい知識と、 生きる力と仲間たち～ (全5回)	栃木県立がんセンター病理診断科 医師 平林 かおる 氏 栃木県立がんセンター検査技術科 臨床検査技師 岡田 佑衣子 氏 臨床検査技師 枝 明日美 氏 宇都宮セントラルクリニック放射線科 医師 佐藤 俊彦 氏 済生会宇都宮病院緩和ケア科 医師 粕田 晴之 氏	6/2～ 6/30	(50) [49] 49	47 [44] 93.6%	唯一の土曜日午前開催の講座であったが出席率が高く、がんキャリアと思われる受講生も見受けられ、質問等も積極的に行われた。医療現場の最先端で働いている医師や臨床検査技師から、発症率の高い病状、早期発見のための検査方法、最新の放射線治療、そしてホスピスや在宅医療まで講義いただいた。講師は専門的な難しい文言も丁寧に説明され、個別の質問も多く、休憩時間を割いてまで対応され、身近な病である「がん」を正しく理解することで希望や尊厳を再確認できる機会となった。
II	自然災害にどう対処する？ ～多発する自然災害への備え～ (全7回)	気象庁宇都宮地方気象台 職員 株式会社下野新聞社 大田原総局長 論説委員 三浦 一久 氏 宇都宮市行政経営部危機管理課 職員 栃木県県民生活部危機管理課 職員 NPO法人栃木県防災士会 理事長 稲葉 茂 氏 栃木県立博物館 学芸員 柏村 勇二 氏	6/7～ 7/19	(50) [30] 30	28 [26] 92.9%	期間中に大阪北部地震や西日本豪雨もあり、それぞれの受講生は自分の事と捉え、積極的に質問したり、見学や防災グッズの作成等も、熱心に取り組んでいた。講師は、気象予報・行政の危機管理・報道・防災・地質学等の様々の専門的な立場から自然災害について説明され、どの講師も日本に住む限り自然災害はどこでも起こりうることを前提に、自助、共助の大切さを強調された。実際の災害時に役に立つ具体的な対処の仕方を学ぶ機会となった。
III	慈覚大師円仁 ～その魅力を探る～ (全7回)	栃木県立博物館 名誉学芸員 千田 孝明 氏 國學院大學栃木短期大学 教授 酒寄 雅志 氏 大慈寺 住職 林 慶仁 氏	6/8～ 7/20	(70) [134] 85	82 [73] 89.0%	郷土が誇る高僧慈覚大師円仁を、諸説ある出生地や生い立ちから比叡山での天台宗の礎を築くまでの偉大な業績を、出家した大慈寺の住職をはじめとした講師により、郷土が生んだ世界的偉人「円仁」の魅力を見出す機会となった。募集定員に対し申込多数だったため定員数を増やしての対応となり、毎回出席率も高く受講生の興味・関心が深まった。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	320人	【総合的な評価】 6講座中3講座について定員を超える申込みがあり、4講座で修了率が90%以上と高く大変好評だった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の95%を占めた。(参考1参照) これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	
			応募者数	458人		
			受講決定数(開講前)	348人		
			受講者数(開講後)	330人		
			修了者数	298人		
			修了率(修了者/受講者)	90.3%		

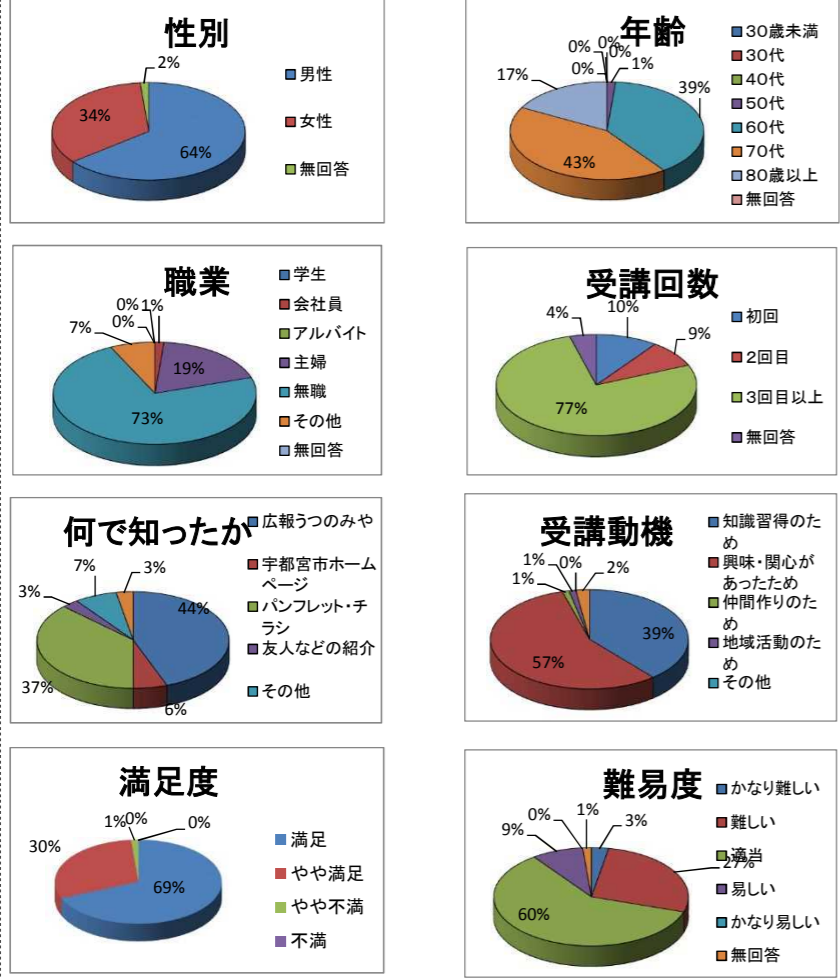
(参考)受講者の感想・意見
<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究に基づく話で大変参考になり視野が広がった。 ・図書館で関連図書を借りて読んだ。 ・尊氏が「公権力に基づく統制理論」に変化していく過程を引き続き学ぶ機会がほしい。 ・公開講座と専門講座は内容が関連していないのに出席日数に含むのはいかがなものか。検討してほしい。 ・3人の人物を掘り下げるには、限られた時間と回数の中では難しく思った。時間をかけて欲しかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子供の視点など面白い内容だった。 ・空き家問題は詳細データをもとに勉強になったが、どうすればよいかの考えを聞きたかった。 ・テーマ・サブテーマから内容が外れている(2名) ・やさしい環境経済学、説明が一方的で乱暴(効率、利便性、優先や選択が説明されていない) ・タイトルから「都市計画や住環境の未来図」などの講義を期待したが期待外れだった。 ・高齢化に伴った都市計画の考え方も聞きたかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮でこれほどの和歌が詠まれていたとは初めて知った。和歌に興味を持つことが出来た。 ・宇都宮歌壇が全国的にも希有な存在であったこと、宇都宮一族の中にこれ程多く勅撰集にのった歌人が居た事等を知る事ができた。 ・単なる事実でなくその意味を話していただき大変ためになった。 ・初めはよく解らなかつたが回を重ねるにつれて大分解ってきた様に思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の病気について希望が持てた。 ・がんを知り、その素性から、取り組みの最新情報、紹介などが良かった。 ・通常伺えない病理の先生のお話は解り易くよかった。 ・がんについて多角的な視点から学ぶことができた。 ・がんについて何も知らなかつた。専門的な言葉が多く、理解するのが難しかった。 ・後日「メディカルカフェ」に参加させていただきたいと思った。 ・病と健康が身近になり自分の事としての学びになった。
<ul style="list-style-type: none"> ・自然が相手だけに、心構えと準備が必要と痛感した。 ・日本は自然災害の多い国であることを理解し出来ることを実行することの大切さを学べた。 ・気象庁、新聞社の方、行政の方と様々な分野の講師の経験を生かした講義を聴けて良かった。 ・警報・勧告・指示の区分がわかった。 ・出前講座を有料講座にするとき、お金に見合った内容の検討も必要ではないか。 ・5年一昔の時代、5年に1度は災害の講座が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の偉人としての認識を今回の受講によって学習出来た事が良かった。学生時代の社会科の歴史で学んだ遣唐使など本当に理解が甘かった事を実感した。 ・話を聞いて円仁がとても身近になった。 ・栃木県の偉人としての評価が地元で広まっていない感じがして残念。 ・名前は知っていたが功績等は良くわからなかつたので勉強になった。
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規受講者の取り込み 新たな受講者を取り込むため、市民大学への関心を高める講座設定や広報の方法を検討するなどの仕掛けが必要である。 ・幅広い学習内容での講座の実施 市民の知的好奇心を満たし、生活に潤いや生きがいを与える講座を開催するためには、受講者ニーズの高い歴史や文学等の趣味教養的な講座のほか、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座を実施していく必要がある。

平成30年度宇都宮市民大学前期専門講座 アンケート結果

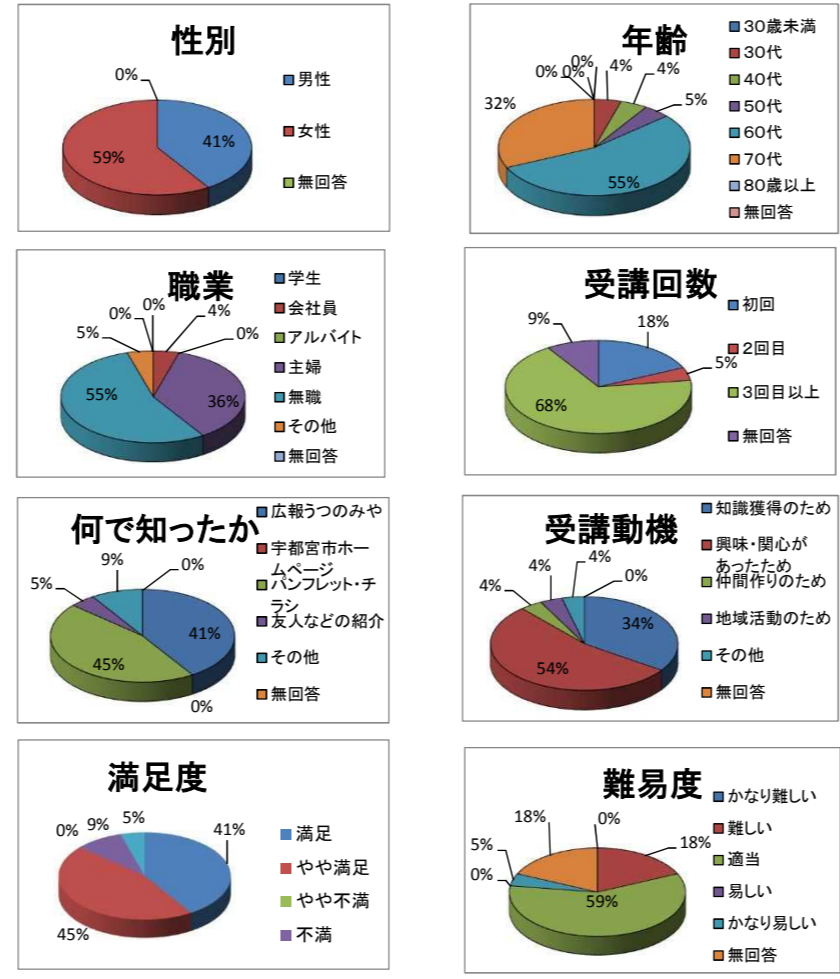
- 1 受講者数 330名
- 2 アンケート回答数 279名
- 3 アンケート回収率 84.5%



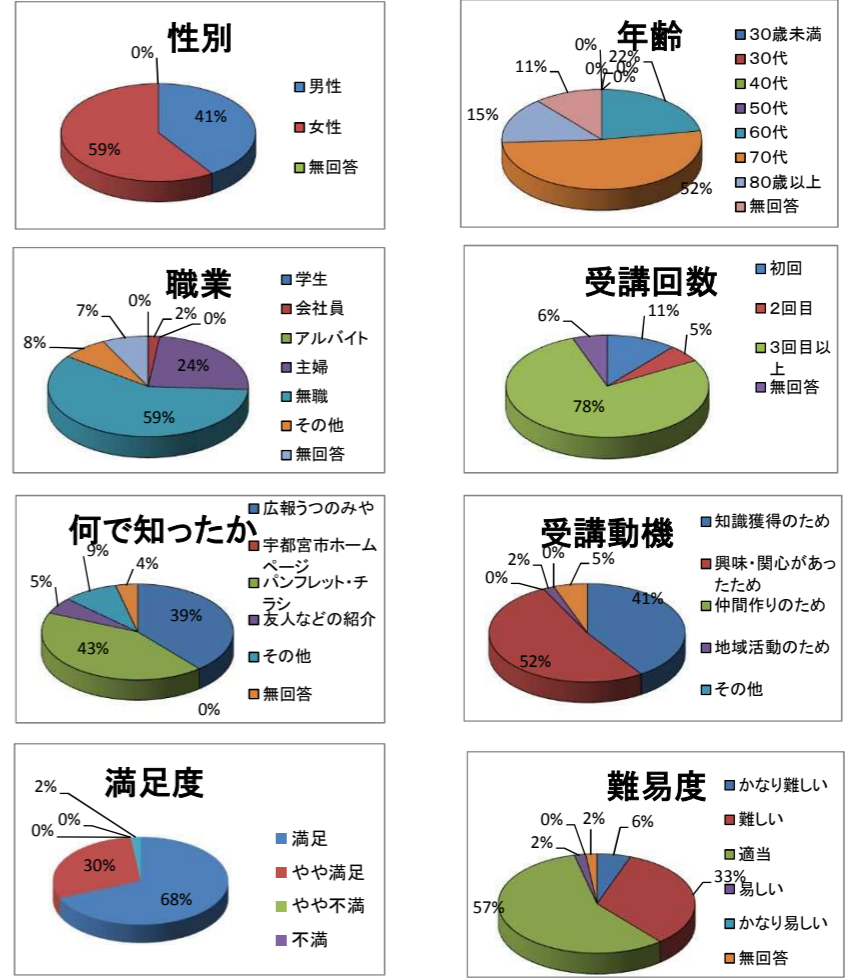
①悪人か？英雄か？ ～見方を変えると歴史が変わる～



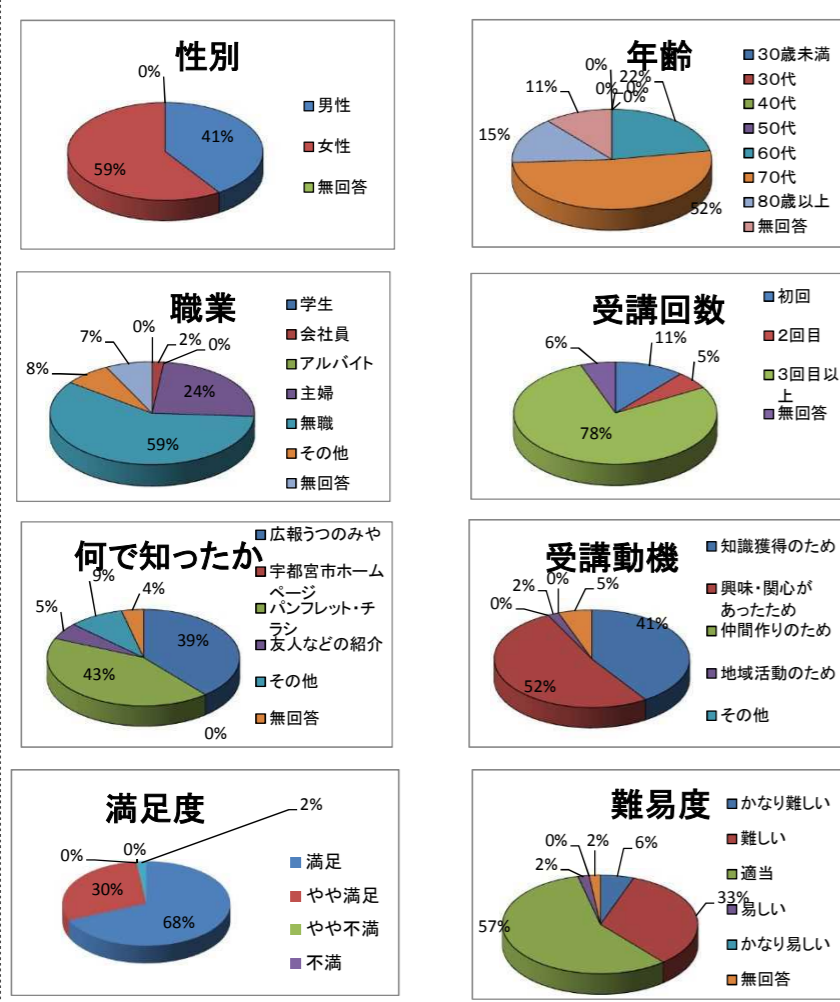
②住みやすい都市と環境を考える



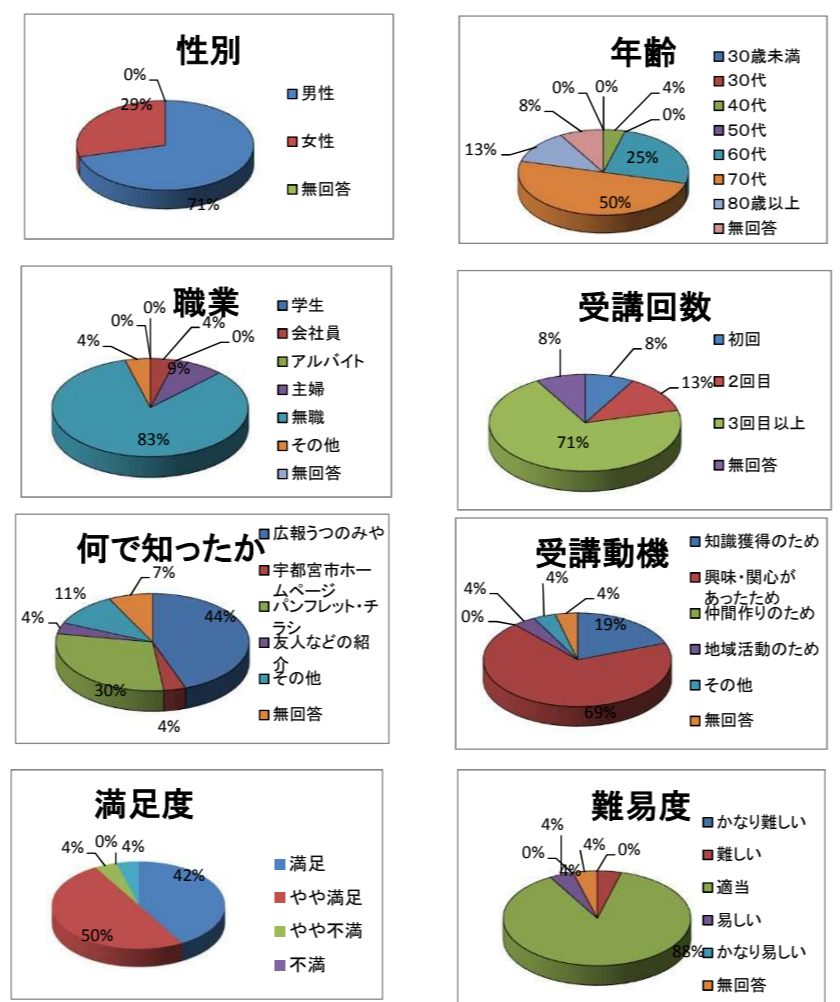
③中世宇都宮一族の文化力 ～「宇都宮歌壇」の成立と和歌をめぐって～



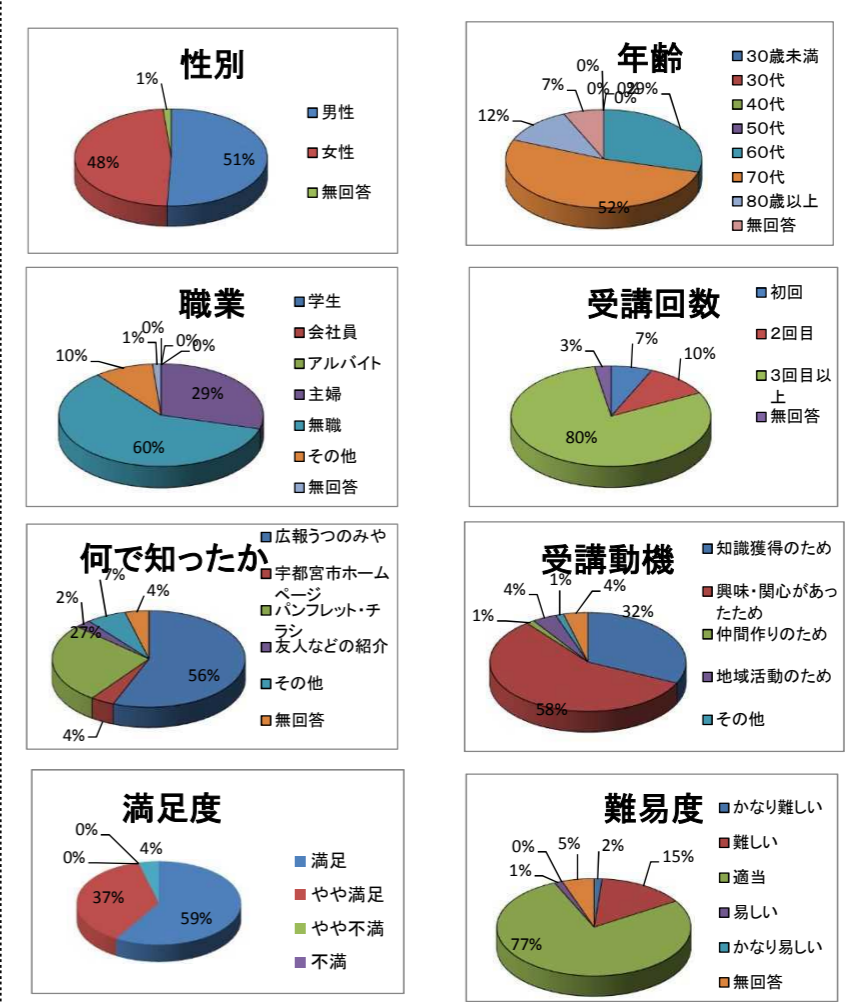
④希望と共に生きる ～新しい知識と、生きる力と仲間たち～



⑤自然災害にどう対処する？ ～多発する自然災害への備え～



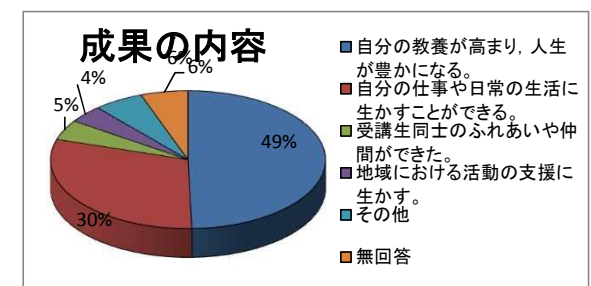
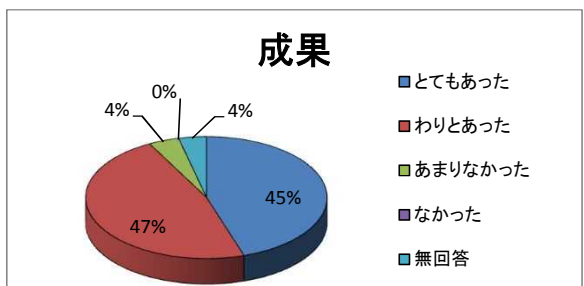
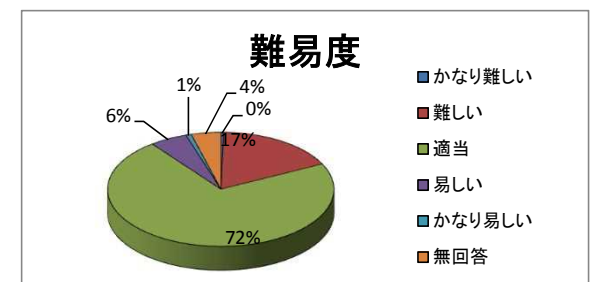
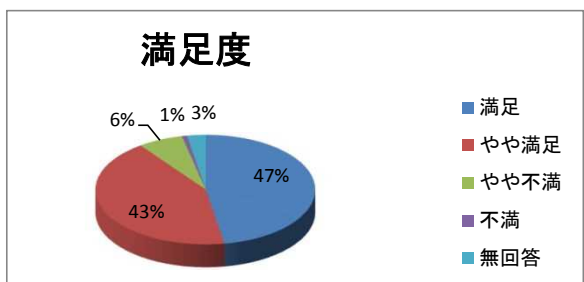
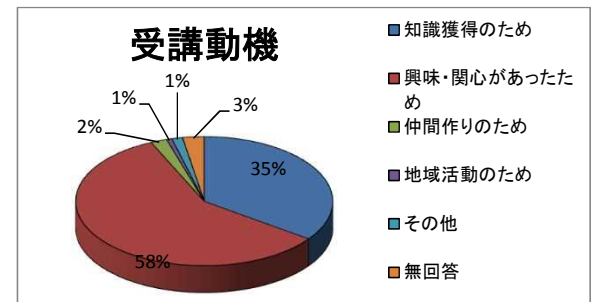
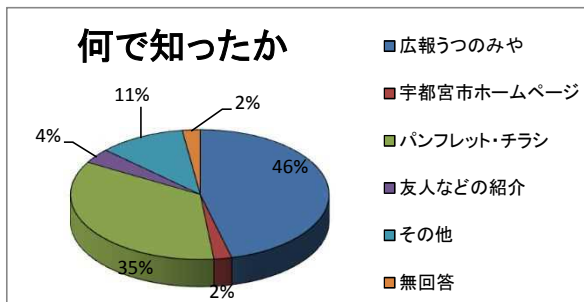
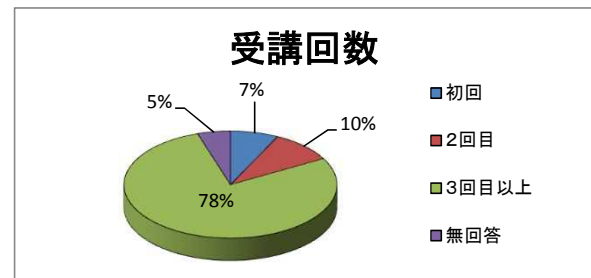
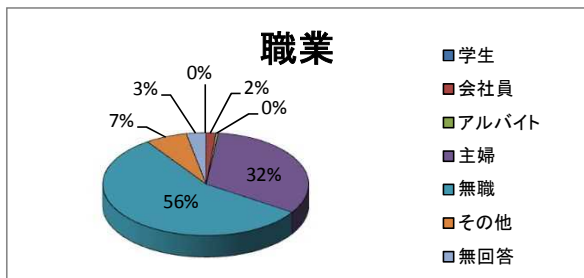
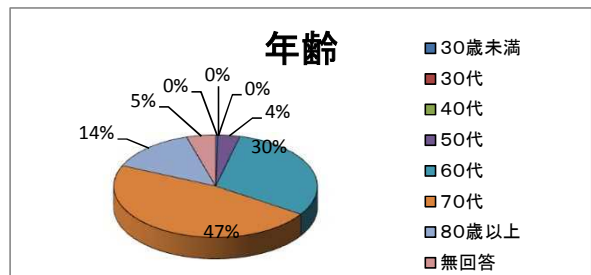
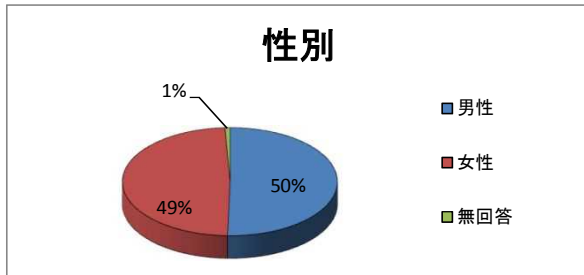
⑥慈覚大師円仁 ～その魅力を探る～



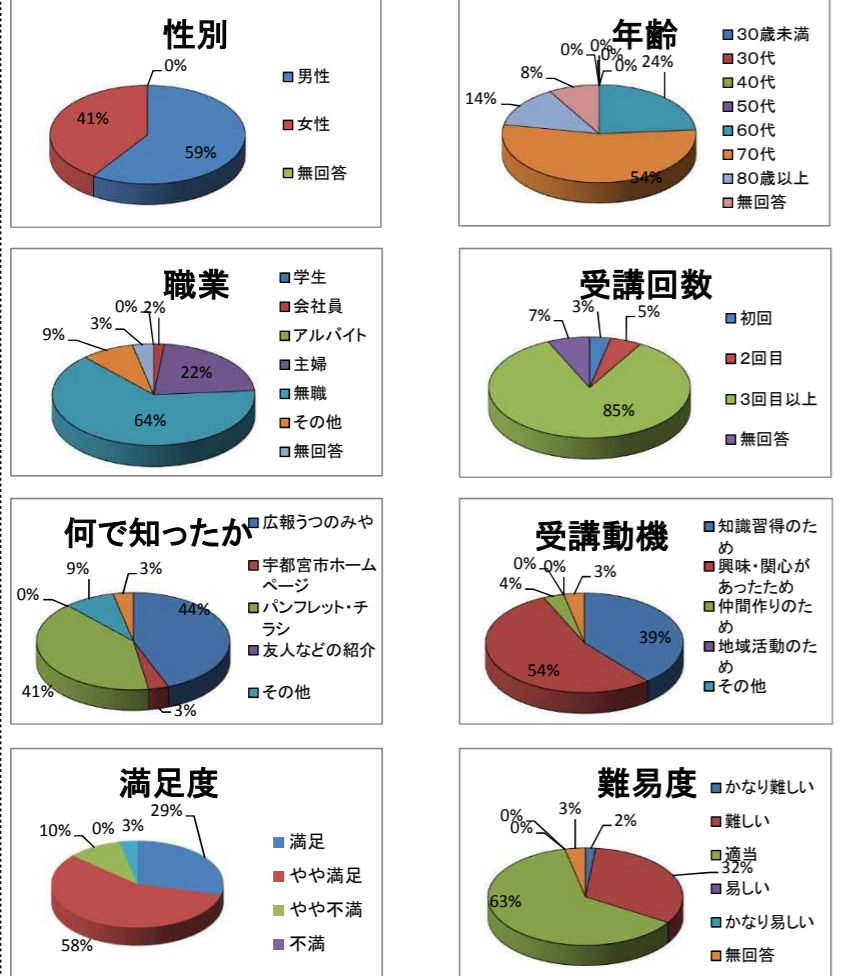
コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	修験の世界 日光山の歴史と信仰 (全5回)	総本山 甕嶽山観音寺 代表宗家 甕岳 聖海 氏 栃木県立博物館 名誉学芸員 千田 孝明 氏	10/29～ 12/3	(70) [104] 84	84 [78] 92.9%	募集定員に対し申込多数だったため、定員を増やして対応した。毎回出席率が高く興味・関心の深さを感じた。「修験」とは学者、研究者、修験僧によって異なった解釈や、山の地勢に応じて修行が構成され人と山の密接な関係により「修験」が成立している等、修験者の立場から講義いただいた。「法螺」の音の実演には受講者も感銘を受けていた。また日光山と鎌倉幕府の歴史や弁覚の功績、「光明院」との関わりなど、日光の偉大さを再認識する機会となった。	<ul style="list-style-type: none"> 日光山の知られざる歴史に触れられて良かった。 全く知らない分野でしたので興味深く受講し、自分なりに理解を深めた。 学んだ事をきっかけに、周辺のことを調べる機会となった。 修験の法螺関係では、親しみやすく実演などもありわかりやすかった。 専門的で難しかったが、少し歴史の流れが理解できた。
I	大地の公園「ジオパーク」 ～地域の自然構造を知り・ 自然に学ぶ～ (全7回)	国立研究開発法人産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門総括研究主幹 山元 孝広 氏 栃木県立博物館学芸員 河野 重範 氏 那須烏山市教育委員会文化振興課文化振興グループ 総括 大鐘智夫氏 主任 谷口寛明氏 観光案内ボランティア 澤村俊夫氏 小松原美貴氏 宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科 准教授 清木 隆文 氏 宇都宮美術館 主任学芸員 橋本 優子 氏 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク 理事長 矢野 正広 氏	11/1～ 12/13	(40) [36] 36	36 [28] 77.8%	ジオパークに焦点を当て、自然をテーマにした講座を実施したが、学習内容が自然の地形や地質についてだけではなく、生活に関わることや、これからのまちづくりなど、様々な視点で学ぶことができた。多くの講師の方に御協力いただき、それぞれの専門性から、受講者は幅広い教養を得ることができた。学習方法は、講義だけでなく、実習と館外学習を取り入れ、自ら考え、体験しながら学ぶことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 地元のことが良く理解できた。 自然界の生い立ちがあり成り立っていることを知り興味深かった。 火山の話が面白かった。 那須烏山ジオパークの取り組みに注目。 大金クジラなどの化石や発掘現場の話が聞きたかった。 ジオパークに災害時シミュレーションは関係ないのではないかと。
I	宇都宮の近現代Ⅱ ～戦後のあゆみ～ (全7回)	宇都宮市文化財保護審議会委員 大嶽 浩良 氏 有限会社 随想舎 編集部 下田 太郎 氏	11/2～ 12/21	(80) [56] 50	50 [46] 92.0%	平成29年前期の「宇都宮の近現代」の続編となった講座であった。戦中以降の宇都宮市の歴史を様々な角度から掘り下げ、今日までの移り変わりを学ぶことができた。ユーモア溢れる講師の話術もあり毎回出席率も良く、満足度の高い講座だったことが伺える。また、地元の話題であることから、学んだ後に現地に赴きたいとの意見も聞こえ、更に今後につながる有意義な学びであった。	<ul style="list-style-type: none"> 宇都宮の知らないことを学べて面白かった。 地域活動に活かせる。 講師の熱意が感じられた。もっと聞きたい。 工業団地や官環等普段関心がないが興味深い。 軍の施設における文教地区の創成期、成熟期についてもっと知りたかった。 近現代Ⅰを受講していないものには不親切と感じた。 宇都宮に永住してもらえるような講座を組んでほしい。
Ⅱ	笑いの健康学 ～いつまでも笑って暮らすために～ (全7回)	NPO法人シニア大衆講師 笑い療法士 北沢 正嗣 氏 医師 松本 光正 氏 薬剤師 川上 千里 氏 笑顔ソムリエ 吉羽 咲貢子 氏 漫談家 若林 一声 氏 健康管理士 藤井 敬三 氏	10/30～ 12/11	(50) [49] 44	44 [37] 84.1%	これまでも取り上げられたテーマであったが、「笑い」が医療的効果のみならず、元気に長生きするために大いに効果があることを、各回の講師が笑いを伴う語りで説明され、「笑い」の実習も含めて、受講生は大いに「笑い」、「笑い」の効果を実感できる講座になった。また、「笑い」を文化や芸能等の現代にいたる歴史から、江戸川柳や、落語など「笑い」の奥深さについても学ぶ機会になった。	<ul style="list-style-type: none"> 今後はユーモアと笑いを心掛けたい。 女性が男性より長生きすることが、受講して実感できた。 知人に話したら、次の講座は何？と聞かれ、機会があったら受講したいと言っていた。 講座を聴いて実践している。笑う事の大切さを理解した。 TVなどを見て知っていることばかりだった。 先生方が元気で若く、負けてられないと思った。
Ⅱ	健康寿命を延ばすにはどうする？ ～様々な分野から学ぶ～ (全6回) [帝京大学連携講座]	帝京大学 医療技術学部 柔道整復学科 教授 宮坂 卓治 助教 剣持 佑起 教授 川井 一廣 講師 阿部 弘之 助教 刈屋 遵 帝京豊郷台接骨院 院長 前川 和人	11/1～ 12/13	(40) [53] 53	53 [48] 90.6%	<ul style="list-style-type: none"> 定員を上回る申し込みからも「健康寿命」への関心が高いことがうかがえ、講座内容も健康寿命に繋がる実践的な呼吸法や体操が織り込まれ、受講生は自分の今の身体の様子を実感する機会になった。 各回とも、受講生からは現在抱えている「痛み」などについて質問が多く出たが、講師は時間を超過して回答され、受講生の安心に繋がったものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で実際にやる動機付けになった。 この夏骨折し、リハビリ中だが、健康は自分で作り、保つものと再認識した。 実習した呼吸法、健康体操等実践したい。 姿勢や歩く速度を意識するようになり、健康的な生活を考える機会になった。 座学、実技のバランスがよかった。 自分の身体を確認しながら行動するようになった。
Ⅲ	俳句と絵画、ふたつの道の達人『蕪村』を学ぶ ～「蕪村」号宇都宮から始まった～ (全7回)	筑波大学大学院 教授 清登 典子 氏 筑西市中村美術サロン 中村 兵左衛門 氏 全国水墨画美術協会・全国俳画普及協会 会長 豊島 宗七 氏 美術家 北川 健次 氏	11/2～ 12/21	(50) [78] 73	73 [60] 82.2%	募集定員に対し申込多数だったことから「蕪村」への興味・関心の高さが感じ取れた。「蕪村」の、作句から垣間見れる生活背景の話や、「歳旦帖」の実物を見せて頂くことができたりと、充実した講座内容であった。4名の講師から、それぞれの専門とする内容から講話していただき、様々な角度から「蕪村」の生涯について学ぶことのできた講座であった。	<ul style="list-style-type: none"> 蕪村をより深く知り、俳画にも興味がわいた。 俳画についてはあまり興味がなかったが、今回の講座を通し俳句と俳画の結びつきについて大いに学ぶ事ができた。 蕪村の、とても美しく優しい情景を詠んだ句が多い事と、深い句に感動した。 西洋画との組み合わせなど、思いがけない展開があり面白みがあった。
【コース名】 Ⅰ 郷土を愛する地域・文化・歴史コース Ⅱ 今を読み解く現代社会コース Ⅲ 暮らしを彩る教養コース				募集定員	330人	【総合的な評価】 6講座中3講座について定員を超える申込みがあり、修了率も90%以上が3講座と出席率が高く大変好評だった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の92%を占めた。(参考2参照) これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	【今後の課題】 <ul style="list-style-type: none"> 新規受講者の取り込み 新たな受講者を取り込むため、市民大学への関心を高める講座設定や広報の方法を検討するなどの仕掛けが必要である。 幅広い学習内容での講座の実施 市民の知的好奇心を満たし、生活に潤いや生きがいを与える講座を開催するためには、受講者ニーズの高い歴史や文学等の趣味教養的な講座のほか、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座を実施していく必要がある。
				応募者数	376人		
				受講決定数(開講前)	340人		
				受講者数(開講後)	340人		
				修了者数	297人		
				修了率(修了者/受講者)	87.3%		

平成30年度宇都宮市民大学後期専門講座 アンケート結果

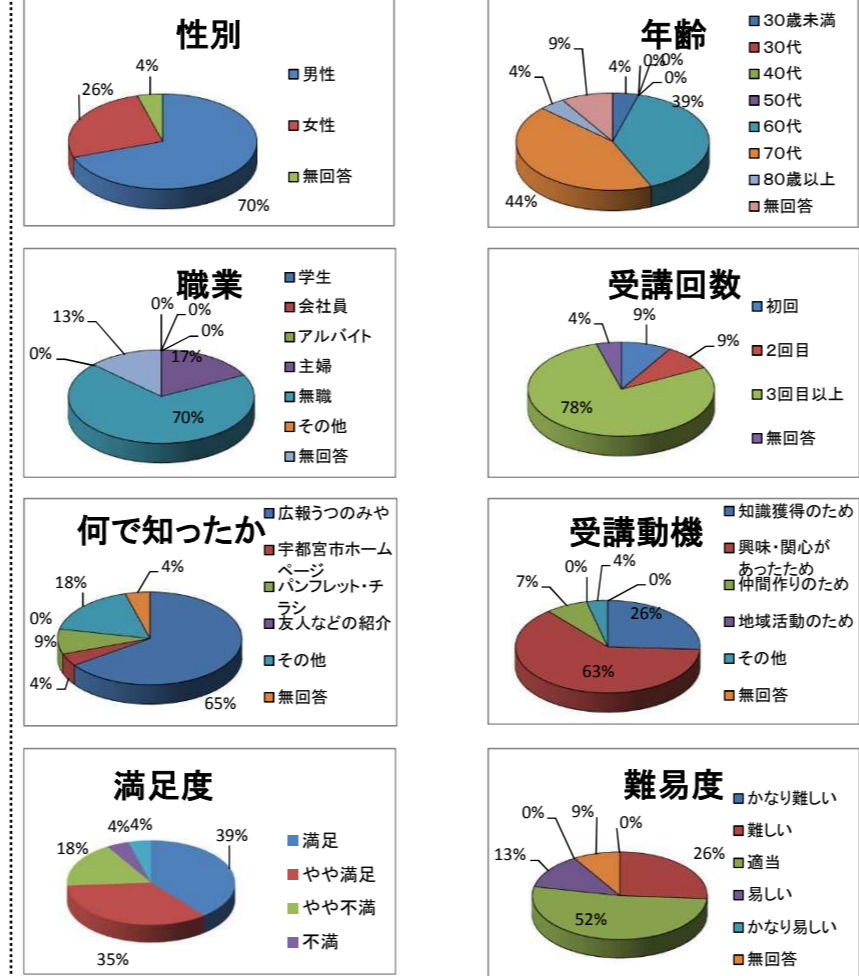
- 1 受講者数 340名
- 2 アンケート回答数 272名
- 3 アンケート回収率 80.0%



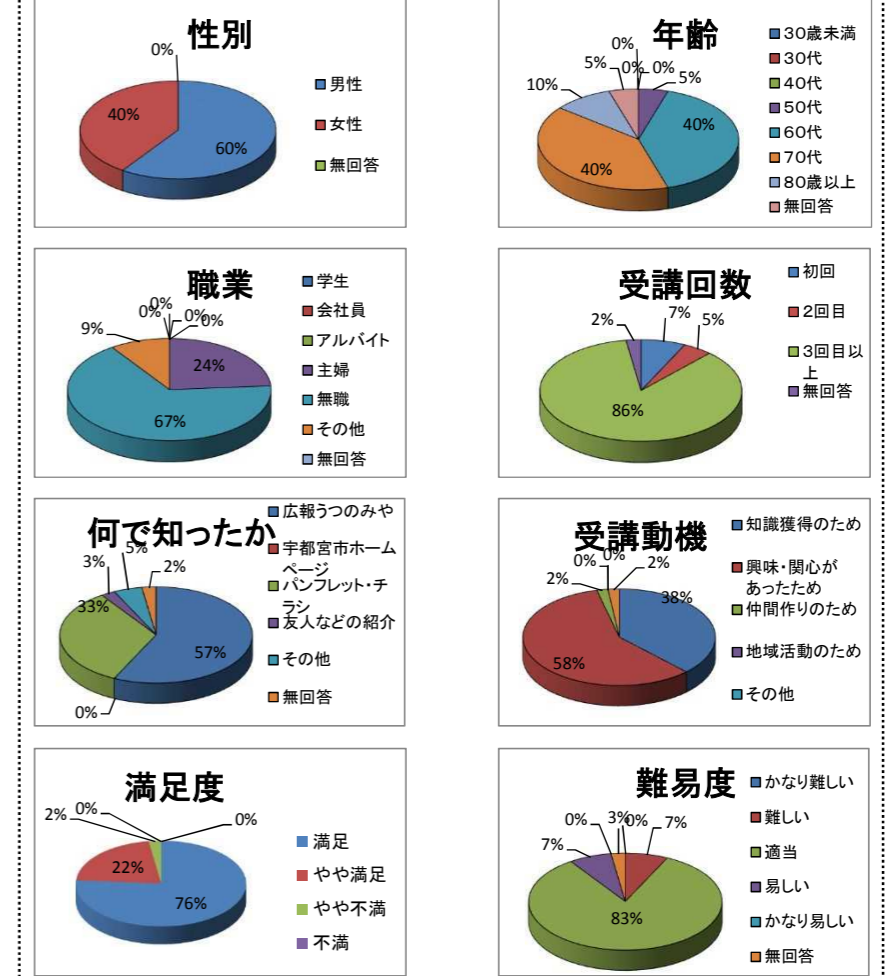
①修験の世界 日光山の歴史と信仰



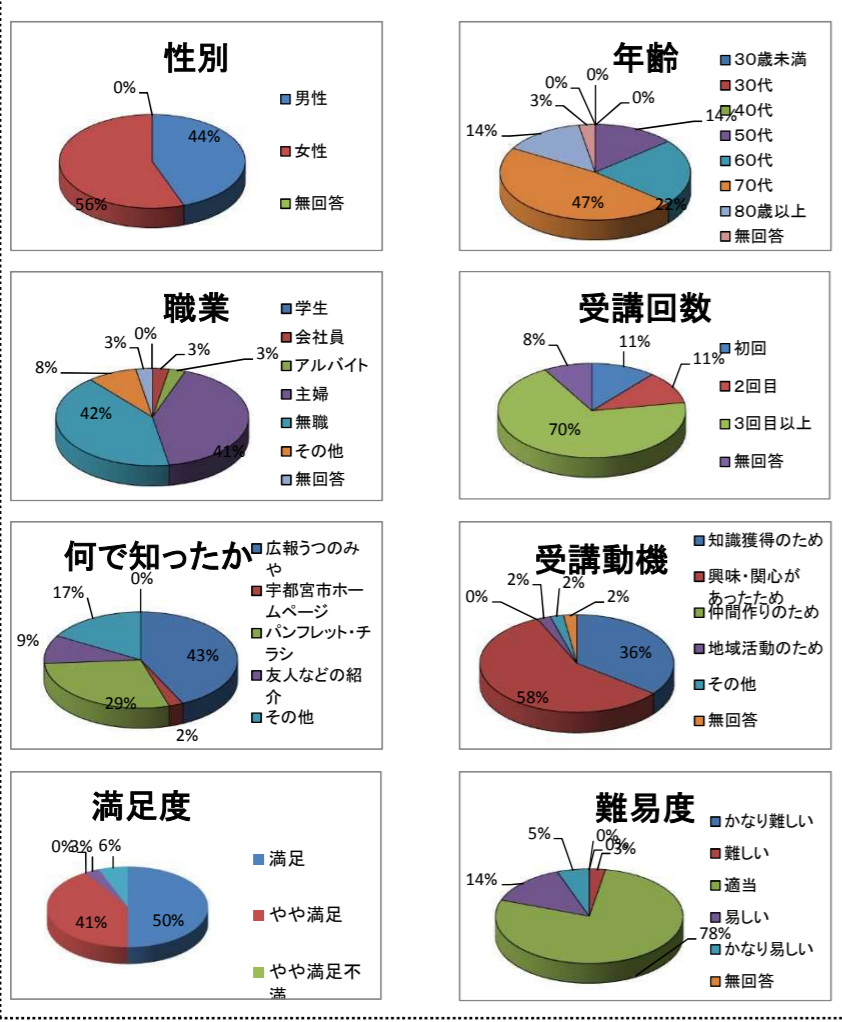
②大地の公園「ジオパーク」～地域の自然構造を知り・自然に学ぶ～



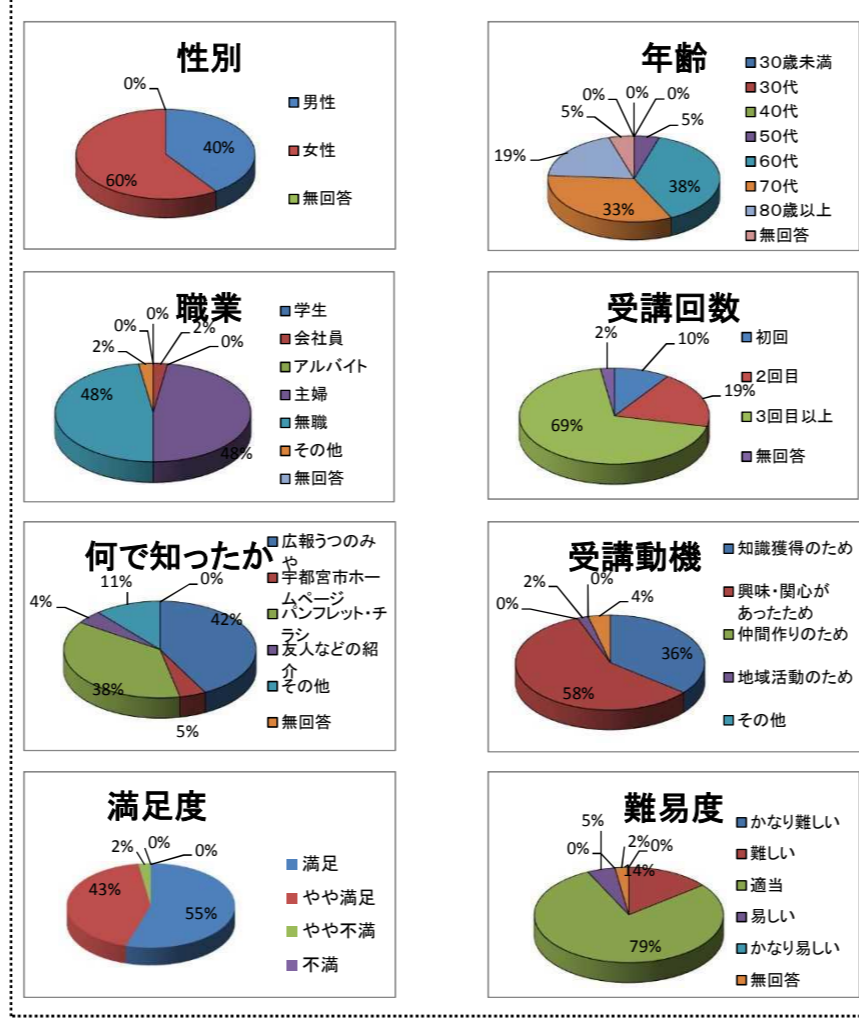
③宇都宮市の近現代Ⅱ～戦後のあゆみ～



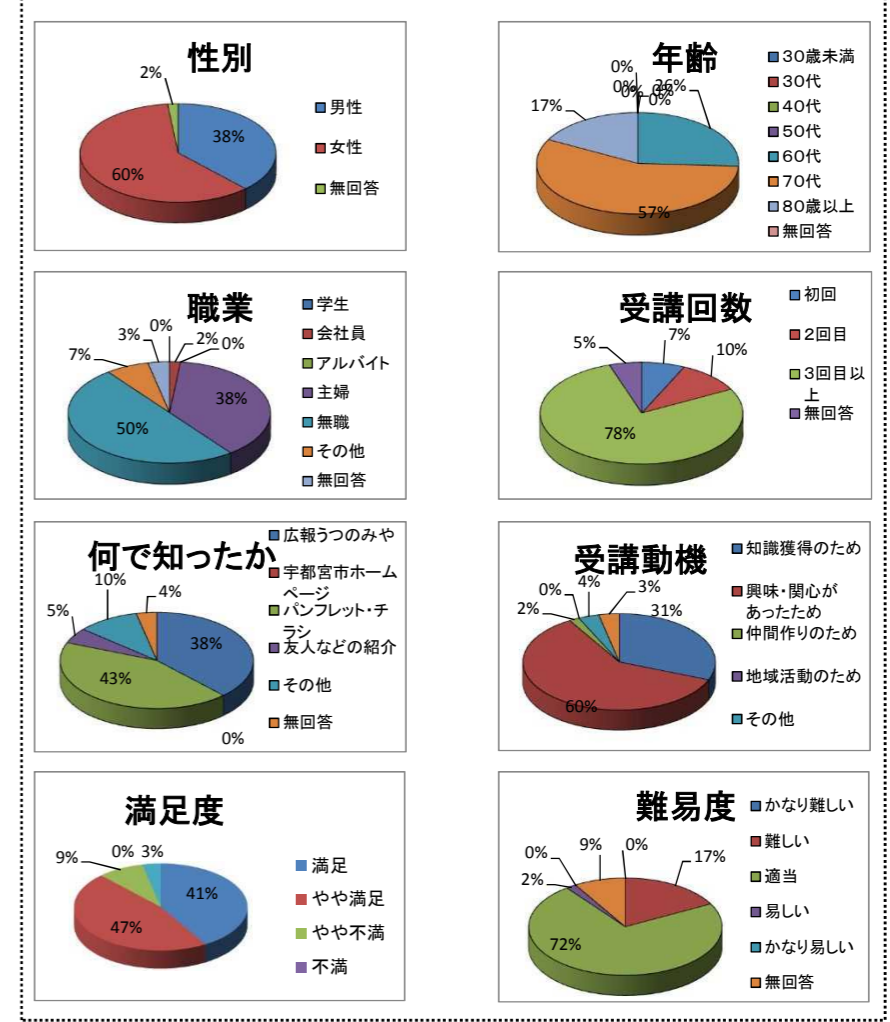
④笑の健康学～いつまでも笑って暮らすために～



⑤健康寿命を延ばすにはどうする？～様々な分野から学ぶ～



⑥俳句と絵画、ふたつの道の達人「蕪村」に学ぶ～「蕪村」号は宇都宮から始まった～



平成 3 0 年度宇都宮市民大学収支決算書

収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1	交付金				
	1 市交付金	1,876,000	1,876,000	0	宇都宮市より
2	受講料				
	1 受講料	2,300,000	2,426,000	126,000	
3	雑収入				
	1 雑収入	100	12	△ 88	預金利子
合 計		4,176,100	4,302,012	125,912	

支出の部

(単位:円)

款	項目	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1	総務費	343,600	271,784	△ 71,816	
	1 報償費	303,600	247,200	△ 56,400	委員謝金
	2 需用費	14,000	5,052	△ 8,948	会議茶代等
	3 役務費	26,000	19,532	△ 6,468	切手代, 委員振込み手数料
2	事業費	3,832,500	4,030,228	197,728	
	1 報償費	2,182,000	1,974,130	△ 207,870	講座講師謝金
	2 需用費	854,500	1,510,230	655,730	
	(①消耗品費等)	465,500	1,131,820	666,320	講座紙代, トナーカートリッジ代, 印刷機代, 昇降式テーブル代等
	(②食糧費)	39,000	14,117	△ 24,883	講師茶代等
	(③印刷製本費)	300,000	322,076	22,076	パンフレット作成等
	(④修繕料)	50,000	42,217	△ 7,783	機器修繕料
	3 役務費	236,000	211,210	△ 24,790	
	(①通信運搬費)	200,000	191,014	△ 8,986	募集パンフレット郵送料等
	(②手数料)	36,000	20,196	△ 15,804	講師謝金振込手数料等
	5 使用料	200,000	54,430	△ 145,570	館外学習貸切バス料金等
	6 負担金, 補助及び交付金	360,000	280,228	△ 79,772	専門講座企画運営費
合 計		4,176,100	4,302,012	125,912	

決算収入額	4,302,012 円
決算支出額	4,302,012 円
差 引	0 円

監 査 報 告 書


宇都宮市民大学運営協議会設置要領第7条第2項の規定に基づき、同協議会の収支決算について、関係諸帳簿及び証拠書類等を監査しましたところ、いずれも適正であり、決算書のとおり相違ないことを認めます。

宇都宮市民大学運営協議会

会長 川本 清 様


平成31年3月31日

監 事

野 正 知 

平成31年3月31日

監 事

小 針 協 子 

平成 31（2019）年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

1 平成 31（2019）年度事業の考え方

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

平成 31 年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による、高度で専門的な内容で講座を実施するとともに、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」の基本目標でもある、一人ひとりが人間力を高めるため、主体的な学習活動に取り組めるよう、多様化する市民ニーズへの対応や、社会的課題、旬の話題を積極的に取り入れるなど、幅広い学習内容で展開することにより受講者満足度の向上や、これまで未実施の曜日や時間帯などにも積極的に講座を実施することで新規受講者の獲得を図る。

2 前期講座

(1) 合同開講式・公開講座

専門講座受講者・一般市民を対象に、合同開講式・公開講座を開催する。

ア 日 時 平成 31（2019）年 5 月 27 日（月）午後 2 時～午後 4 時

イ 会 場 宇都宮短期大学 長坂キャンパス 須賀友正記念ホール

ウ 内 容 ・合同開講式

・公開講座

演題 人世 100 年時代、地域で暮らす豊かな生活のために
～地域における音楽療法の実践から～

講師 宇都宮短期大学

音楽科 専任講師 大島 美知恵氏（音楽療法）

専任講師 阿久津 政行氏（ピアノ）

専任講師 鎌田 亮子氏（歌唱）

(2) 専門講座

表 1 のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ（V スタッフ）企画講座を 5 講座（No. 1, No. 2, No. 4～No. 6）、大学連携講座を 1 講座（No. 3）開催する。

ア 開催期間 平成 31（2019）年 5 月 28 日

～平成 31（2019）年 7 月 18 日

イ 開催回数 5 回～8 回

【表1】前期専門講座一覧

No.	(講座コース) 講座名 (開講数)	講師	開催 期間	定員
1	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース 近代を切り開いた栃木の女性たち ～女性であるからこそできたこと、女性だから 見えたもの～ (全5回)	「須賀栄子と後継者」の著者 渡辺 基 氏 宇都宮大学名誉教授 谷中村の遺跡を守る会長 高際 澄雄 氏 獨協医科大学看護学部元看護学部長 加藤 光寶 氏 彫刻家・木版画家 鈴木賢二 四女 鈴木賢二版画館・如輪房主宰 鈴木 解子 氏 栃木県立博物館名誉学芸員 柏村 祐司 氏	5/28 ～6/25	50人
2	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース 宇都宮の明治維新 ～戊辰戦争でどう変わったのか～ (全7回)	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良 氏	6/4 ～7/16	80人
3	II 今を読み解く現代社会コース 【宇都宮短期大学連携講座】 人生100年時代、 地域で暮らす豊かな生活のために ～心(心理)と身体(看護・食・医療・介護)の 今から～ (全5回)	宇都宮共和大学子ども生活学部 教授 杉本 太平 氏 宇都宮短期大学人間福祉学科 准教授 益川 順子 氏 講師 北爪 あゆみ 氏 助教 松山 紀彦 氏 食物栄養学科 特別講師 吉野 ひろみ 氏	6/10 ～7/8	30人
4	III 暮らしを彩る教養コース 南極大陸 ～知られざる世界の魅力～ (全8回)	気象庁気象研究所 元地球化学研究部長 緑川 貴 氏 国立極地研究所 名誉教授 山岸 久雄 氏 副所長 伊村 智 氏 元技術職員 石沢 賢二 氏 南極・北極科学館ミュージアム ナビゲーター 川久保 守 氏	5/30 ～7/18	50人
5	III 暮らしを彩る教養コース 江戸の科学力!! ～世界最高の自然科学は江戸時代に始まった～ (全6回)	国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長 鈴木 一義 氏	6/3 ～7/8	50人
6	III 暮らしを彩る教養コース 三国志の世界 ～英雄たちの群像～ (全6回)	早稲田大学理事・文学学術院 教授 渡邊 義浩 氏 非常勤講師 高橋 康浩 氏	6/8 ～7/13	50人

3 後期講座

(1) 合同開講式・公開講座

専門講座受講者・一般市民を対象に、合同開講式・公開講座を開催する。

ア 日 時 平成31（2019）年10月
 イ 会 場 宇都宮大学等
 ウ 内 容 未定

(2) 専門講座

表2のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座（No.1～No.4）、大学連携講座【宇都宮大学】（No.5）、事務局企画講座（No.6）を実施する。

ア 開催期間 平成31（2019）年10月～平成31（2019）年12月
 イ 開催回数 未定

【表2】後期専門講座一覧

No.	講座名	開催期間
1	国際的文化人・円仁をはぐくんだ“しもつけ”の風土を考える (郷土を愛する地域・文化・歴史コース)	11月～
2	気候で読み解く日本の歴史 ～異常気象との攻防1400年～ (今を読み解く現代社会コース)	11月～
3	歴史を美貌で振り回した女性たち！ ～犠牲と信念の北条政子・守銭奴と云われても日野富子・ 今この時をお市の方と三人の娘達～ (暮らしを彩る教養コース)	10月～
4	近世都市「江戸」の歴史 ～東京の礎となった江戸の歴史を知る～ (暮らしを彩る教養コース)	11月～
5	【宇都宮大学連携講座】 (タイトル未定) (コース未定)	未定
6	【事務局企画講座】 (タイトル未定) (コース未定)	未定

平成 31 年度宇都宮市民大学収支予算（案）について

収入の部

宇都宮市民大学運営協議会(単位:円)

款	項	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 交付金	1 市交付金	1,811,000	1,876,000	△ 65,000	宇都宮市より
2 受講料	1 受講料	2,575,000	2,300,000	275,000	
3 雑収入	1 雑収入	1,000	100	900	預金利子
合 計		4,387,000	4,176,100	210,900	

支出の部

(単位:円)

款	項(目)	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1 総務費		373,000	343,600	29,400	
	1 報償費	332,000	303,600	28,400	委員謝金
	2 需用費	15,000	14,000	1,000	会議茶代等
	3 役務費	26,000	26,000	0	開催通知郵送料等
2 事業費		4,014,000	3,832,500	181,500	
	1 報償費	2,214,000	2,182,000	32,000	講座講師謝金
	2 需用費	1,126,000	854,500	271,500	
	(①消耗品費等)	657,000	465,500	191,500	講座紙代等
	(②食糧費)	18,000	39,000	△ 21,000	講師茶代等
	(③印刷製本費)	401,000	300,000	101,000	パンフレット作成, 受講者用ファイル等
	(④修繕料)	50,000	50,000	0	機器修繕料
	3 役務費	230,000	236,000	△ 6,000	
	(①通信運搬費)	200,000	200,000	0	募集パンフレット郵送料等
	(②手数料)	30,000	36,000	△ 6,000	講師謝金振込手数料等
	5 使用料	84,000	200,000	△ 116,000	館外学習貸切バス料金等
	6 負担金, 補助 及び交付金	360,000	360,000	0	専門講座企画運営費
合 計		4,387,000	4,176,100	210,900	

宇都宮市民大学専門講座における公開講座の取り扱い変更について

◎ 趣旨

宇都宮市民大学専門講座における公開講座の取り扱い変更について協議するもの

1 公開講座の概要

- ・ 平成23年度より、多くの人の学びや交流をする機会を創出するため、各専門講座の第1回目の講義として、前期・後期それぞれに合同開講式終了後に併せて公開講座（有料講座）を実施
 - ・ 公開講座受講料を専門講座受講料に上乗せして徴収（500円）
 - ・ 公開講座の出欠は専門講座受講生の専門講座修了率※へも含めて換算
 - ・ 公開講座のみ聴講を希望する受講者も別途受付し受講料の徴収
- ※ 専門講座は、講座回数の4分の3以上出席した受講生に対して修了としている。

2 課題

- ・ 合同開講式・公開講座出席者の満足度は高いものの、専門講座受講者における出席率は低い状況にある。
- ・ 受講する専門講座のテーマと公開講座のテーマが異なる場合、関心のない内容であるにも関わらず、受講料を徴収されることや修了率に換算されること等に対し、受講生から不満が出ている。

【参考】

●市民大学専門講座受講者アンケートより一部抜粋

- ・ 大学連携の公開講座内容は、受講を希望した専門講座の内容とは異なることから、関心がなく出席したくない
- ・ 公開講座は、原則連携する大学を会場に実施するため、専門講座実施会場（人材かがやきセンター）ではないことから、遠方につきバスでの移動が大変だ
- ・ 専門講座の受講料に加え希望していない公開講座まで負担することは不満だ
- ・ 公開講座の出席を専門講座の修了率に含めないでほしい ほか

3 対応（案）

- ・ 公開講座への出欠を専門講座における修了率に含めることを平成31年（2019）度より廃止する。
- ・ 多くの人の学びや交流をする機会を創出できるよう、合同開講式及び公開講座のあり方について検討を行う。

4 スケジュール

平成31（2019）年

4月 第1回宇都宮市民大学運営協議会
専門講座の修了率へ公開講座の出欠を含めることの廃止

8月 第2回宇都宮市民大学運営協議会
平成32（2020）年度宇都宮市民大学運営方針決定
※「合同開講式及び公開講座のあり方」も含む